

岩船地区租税教育推進協議会長賞

『税金の大切さ』

村上市立村上東中学校 3年
鈴木 絵子 さん

私たちの身の回りには税金でまかなわれているものが多くあります。例えば教科書や机、椅子などの学習道具、ごみの収集や処理、医療費、災害後に町を再生するための費用などまだ税金でまかなわれるものは沢山あります。そしてその税金には様々な種類があり、主に何かものを買う時に誰もが払う消費税、大人では所得税など人によりたばこ税というものもあります。

私は普段から使っている学習道具や公共施設などに税金が使われていることは知っていましたが、こんなに色々な事に税がかかると国民にかかる負担が大きくなってしまわないかと疑問に感じていました。私がそう感じるようになったのは報道番組を見ていた時でした。その時テレビでは二〇一九年十月一日から消費税が八パーセントから十パーセントに引き上がるということが話題になっていました。テレビの取材を受ける人の中に、これ以上消費税が増えると負担が大きくて大変だと言う反対意見も多くあることを知りました。このことに私も、他にも税金を払っているのに、さらに高い消費税が加われば、支出が増えるばかりで国民の生活が



苦しくなってしまうのではないかと不安になりました。

ですが、この消費税の引き上げが「これからの社会」に繋がることを租税教室を通して学びました。というのも、現代では少子高齢化が進み、社会保障の費用が増えているのに対し働き手の減少、つまり一人ひとりの税金の負担が重くなっていることが問題となっています。しかし、何十年後も少子高齢化が進む「これからの社会」を考えた時に今のうちから消費税が十パーセント、あるいは十パーセント以上が当たり前の世の中をつくっておくことで社会保障の財源が安定して確保できます。そして、私たちやそれ以降の世代への負担の先送りを減らします。だから、今は高く感じられる税も将来の自分の暮らしを支えれば、私は今では増税に賛成です。

これから三、四年後、十八歳になると私たちは選挙権を持ち、税金を決める県・市議会議員の選出をすることになります。大人になれば、さらに様々な種類の税金を納めなければなりません。こうして徐々に私たちも税金と関わって生活していくので、中学生のうちに税金の大切さを知ることができて本当に良かったです。

